

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡パラの家 (A棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	平成28年7月15日	評価結果市町村受理日	平成28年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171000645-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171000645-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年8月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護福祉士・ケアマネジャー・看護師の資格を取得した職員が多数働いており、質の高い介護が提供できている。また、定期的に内科・心療内科の往診、必要に応じて歯科往診があり、医療面で安心感のある生活を営むことができる。昨年から、共用型デイサービスを開始して、居宅の方にも利用して頂けるよう地域に根ざした運営を行っている。地域との交流では、定期的に日赤奉仕団ボランティアの受け入れやイベント(城下町花火・春祭り等)・外出や外食の行事を取り入れ、楽しみを持って生活して頂けるよう工夫している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、民家に囲まれた昔ながらの和風建築であり、利用者は、木のぬくもりを感じながら、地域住民と共に生活を送ることができる。母体は、24時間医療体制が整う医療法人で、利用者、家族、職員は安心して過ごすことができる。地域との交流も積極的に行い、災害訓練やイベント等には、準備段階から利用者も一緒に行えるよう声かけをし、「自分でできる喜びと誇り」を実感できるよう支援している。デイサービスの開設は、利用者間の交流、福祉の理解を深める大切な取り組みに繋がっている。管理者は、質の高い人材の育成に努め、資格取得の支援、職員の仕事と家庭が両立できる取り組みを実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(A棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。	理念は「住みなれた地域で、馴染みの人たちと共に、家庭的な雰囲気の中、自分で出来る喜びと誇りの持てる生活を支援する」と掲げている。職員の目に付きやすい玄関や、共有の居室に掲示し、管理者、主任は業務を通じて職員と話し合い、共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や祭りへの参加、協力を行い地域の一人として交流を図っている。また、中高生の体験実習の受け入れや幼稚園への訪問、そして各種ボランティアの参加を頂いている。	自治会を通じて、地域と事業所の行事情報を交換し、清掃活動、防災訓練、祭りで使用済みこしの花作りに参加をしている。中高生の職場体験を受け入れ、定期的に幼稚園に訪問し交流をしている。ボランティアの協力も多く、地域の一員としてつながり、生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括ケアネットワーク推進委員会に定期的に参加して、在宅ケアや認知症ケア等医療、福祉が協同して実践出来るための意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き、活かしていくための有意義な場となっている。	家族が参加しやすい休日を設定し、地域代表や行政、利用者家族も半数が参加している。事業所の現状報告や情報交換を行ない、行政から介護保険の動向などの説明を受けている。地域からは、祭りの協力や参加依頼などがあり、それらを受け、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また、地域包括ケアネットワーク推進委員会の委員として参加している。	困難事例の相談、介護相談員の受け入れ、運営推進会議への参加依頼など、日常的に行政と連携し、協力関係を築いている。行政主催の会議には積極的に参加し、現場の立場から意見交換を行ない、利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に出入りできるようになっている。	事業所の指針を基に、身体拘束、行動制限についての学習を全職員で定期的に行なっている。また、緊急止むを得ない場合については、その都度、職員会議で話し合い、検討をしている。職員は、利用者の思いや行動を束縛することなく、寄り添いながら、楽しく安心した生活が送れるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したりミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度が必要なケースは過去に一例あったが現在は無い。過去に研修には参加しているが経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にも出来る限り運営推進委員会に参加して頂き全体的、個別的な話し合いを行っている。要望等は、カンファレンスで話し合い反映させている。	運営推進会議に多くの家族の参加があり、運営に関する意見や要望を聴いている。担当職員が利用者一人ひとりの日々の生活を手書きで家族に報告し、情報交換をしている。また定期的に行事情報、記録を家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。	管理者も職員と共に現場につき、日常的に意見交換をし、意見や要望を聴き、改善できる課題は速やかに対処し、解決している。職員の資格取得機会の提供や協力体制があり、勤務時間、子育て支援など、職員が家庭と仕事の両立ができる体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職が上がることで昇給に反映させている。また、資格手当により資格習得に向け、向上心を持って働ける環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が研修案内を閲覧して、希望があれば受講できるようにしている。また、必要な研修は業務として受けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。また、他施設の職員研修を受け入れネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接にて施設内の見学や本人と話をすることで、困っている事や不安や要望などに耳を傾けながら本人との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で家族にも施設内の見学をしてもらい、家族の現在困っていること・不安・施設への要望など聞き、その希望に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接で本人や家族の希望・要望を聞き、ケアマネ・看護師・介護職員で話し合いをして、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする者として、利用者と一緒に作業したり、利用者の話に耳を傾け、互いに関わる時間を大切にしながら安心して生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や様子を月一回のお便りで家族に報告している。また、本人の状態に変化があったときは、電話で連絡している。本人から希望があれば家族に連絡し、家族に面会や外出などのお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人や知人が面会に来所された時は、本人の居室でゆっくり話ができるよう支援している。また、家族にお願いをして馴染みの美容室へ外出されたり、墓参りや月命日に出かけられたりしている。	馴染みの関係を継続するため、利用者の思い出の場所に出かけたりしている。利用者が、日頃希望する外出先を家族に伝え、お墓参りや外泊等、無理なく家族が協力でき、つながりを大切に継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係・性格・嗜好・特技などの把握に努め、より良い関係を保ち、互いに楽しく生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は次のサービスへの情報提供(電話 連絡、サマリー)を行なっている。また契約終了後も依頼があれば相談や支援を行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いや意向を把握したり、困難な場合は、表情や動作から思いを汲み取り、家族からも情報収集し、一人ひとりの思いに寄り添うように努めている。	入居前のアセスメントを参考に、入居後は時間をかけて、個別ケア、会話、表情等で利用者の思いや意向を把握している。入浴介助の場で把握することもあり、知り得た情報は職員間で共有し、利用者満足につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人の今までの暮らしや楽しみなどを本人や家族から聞いて情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で一人ひとりのできる力を見極め、常に職員間で話し合いを行っている。また、月1回のカンファレンスでさらに全体で話し合い、各自の残存能力の把握と職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員をつけ、本人の希望や家族の要望を聞いてカンファレンスで話し合い、本人に合ったケアプランづくりに努めている。	介護計画は、利用者、家族の意見や希望を把握し、担当職員を中心にして、医師と関係者で十分に話し合い、介護記録を基に作成をしている。状態の変化時は柔軟に見直しを行っている。	管理者、職員は、利用者の高齢化に伴い、日々の暮らしが困難になる現状を踏まえ、現在の生活維持に向けての取り組みを検討中である。介護計画に取り入れ、利用者が少しでも今の生活を継続できるような支援に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・本人の言動・行動・ケア実践・結果・アドバイスなどを介護記録に記入することにより、職員間での情報共有やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態や家族の希望に応じその都度、職員間で話し合い対応に努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練を行ったり、各種ボランティア(遊び相手ボランティア等)や地域の行事に参加することで、本人が楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の受診状況を把握、本人や家族の希望を確認し主治医を決定している。また、月に4回、協力医院の往診があり、多職種で連携をとりながら支援している。	契約時に、かかりつけ医の利用についての説明を行ない、利用者は希望を選択し継続をしている。これまでのかかりつけ医への受診は、家族同行を原則としている。協力医は月4回の往診があり、3人の看護師と連携しながら、24時間の安心な医療体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師職員を2ユニット3人配置しており、健康管理や状態変化に対応している。また、夜間帯も利用者急変時等には連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者の生活状況及び状態を文章にして提供している。また、病院のケースワーカーと施設ケアマネが情報交換し、スムーズに退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医に報告、相談し、本人や家族と話し合い方針を決定している。	入居前に、利用者と家族に、重度化や終末期の対応について説明し、理解を得ている。利用者の身体の変化に伴い、早い段階から関係者が話し合いを重ね、希望に沿ったより良い選択ができるよう情報を提供し、支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備え24時間対応できるようにしている。事故発生時にはヒヤリハット、事故報告内容を提出し対策を検討している。また急変時のマニュアルを作成し初期対応、AED講習など定期的に受け対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、夜間火災や地震を想定した避難訓練を年2回施行している。訓練を通し利用者の現状態に応じた避難方法を確認している。災害時の備蓄として、3日分の食料を準備している。	年2回消防署の協力を得て、夜間想定を含めた火災訓練を実施し、職員の役割分担、誘導、器具の取り扱い等を確認している。水害や、地震対策についても行政の協力で裏山の改善などが進行中であり、地域の協力体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けをするよう努めている。また、利用者が安心して生活が送れるよう受容・傾聴に努め、その人らしい生活が送れるよう支援している。	地域に貢献した利用者を人生の先輩として敬い、言葉遣いに配慮し、傾聴の姿勢で対応に努めている。トイレや浴場などは、プライバシーが守られる設計で造られており、利用者は、笑顔でゆったりと安心して過ごしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取る中で、利用者の思いや希望を聞き出し、本人の思いや希望を尊重して自己決定出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活に対する思いや希望を聞き、一人ひとりのペースに合わせるよう努めている。また、集団生活の中でも出来る限り本人の意思を尊重し、希望に添うよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみやおしゃれが自己決定出来るよう支援している。3ヶ月ごとに、美容師に来所してもらいカットしてもらっている。行きつけの美容室を希望される利用者は、家族に付き添ってもらい整髪に行かれる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、食器洗いを利用者の残存能力を活用しながら職員と一緒にしている。利用者によっては、お盆で料理を出し個別対応をしている。昼食には、職員も利用者のテーブルと一緒に座り楽しく会話しながら食事をしている。また、週4回利用者の好みや旬の食材を取り入れたメニューを立て、食事を楽しんで頂けるよう支援している。	気の合う利用者同士が同じテーブルに着き、職員を交え、会話をしながら食事を楽しんでいる。会話のなかで次のメニューが決まり、利用者は、個々にできることを手伝いながら、職員と一緒に料理を作り、事業所の理念である「できる喜び」を感じている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考え管理栄養士や専門調理師が関わっている。また、食事摂取量や水分摂取量を把握し、変化があった場合は主治医や管理栄養士に報告・連絡・相談をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態や残存能力を把握したうえで、個々に適した口腔ケアや清潔保持ができるよう支援している。			

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて、声掛け・見守り・介助を行い、失敗が少なく安心できるような支援を心がけている。夜間トイレ使用者には、本人の意思を尊重し、設置場所を決め、安全に移動できるよう支援している。	職員は利用者全員の排泄パターンを把握し、排泄はトイレで行うことを利用者は理解している。ほぼ全員が紙パンツにパッドを併用し、おむつ利用者はない。職員のさりげない声かけや見守り、適切なパッドの選択で対応している。夜間は安全面に配慮して、個々にあった支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩など運動を随時行っている。排便を促す食材を食事に取り入れ、水分補給も定期的に行っている。また、個別に医師の指示により服薬コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分を考慮し、本人と相談しながら入浴の順番を調整している。拒否される利用者には、話題転換をしながらタイミングを図ったり、清拭で清潔を保ってもらっている。入浴中は、職員との会話を楽しくしてもらっている。	入浴は週2～3回であるが、利用者の状態に合わせて清拭、足浴など柔軟に対応をしている。ゆっくり個浴を楽しみたい人には、介助と見守りで対応している。入浴は、職員との大切なコミュニケーションの場でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの寝具を持ってきてもらい安心して休息してもらっている。また、体調や気分にあわせて休息されたり、換気や室温に気を配り快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬のファイルを作成して、服薬している薬の目的や副作用など確認できるようにしている。内服時は名前と日時を確認し、一人ひとり手渡し再度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中から生活歴や経験を把握し、一人ひとりに合った役割や楽しみ・生きがい・気分転換が図れるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ・玄関先での外気浴などを楽しんで頂いている。また、家族との外出・外泊などができるよう支援している。	天候や利用者の健康状態に合わせ、戸外への散歩、テラスでの外気浴などを行なっている。職員とドライブを兼ねての買い物や外出に出かけている。墓参りや美容院、外泊などは、家族の協力で実現できている。年間行事では、桜、紅葉、芝桜などを見学に出かけている。	

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っているが、本人の希望があれば、家族の了承の下お金を所持し、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されればいつでも電話を掛けたり、手紙が書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に製作した季節の作品を居間や居室廊下に飾っている。また、作品の材質・見た目も工夫している。居間に温度計を設置し快適に過ごして頂けるよう支援している。	建物全体が和風であり、木のぬくもりが感じられ、天井が高く開放的である。手作りの作品、季節の花、記念写真などを飾り、利用者はソファでくつろいでいる。対面式のキッチンから利用者を見守り、また、会話を楽しみながら過ごし、生活感あふれる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に椅子を置き、仲の良い利用者同士話をしながら、日光浴や気分転換を図り利用者のくつろぎの場となっている。居間でも仲の良い利用者同士で、歌を唄ったり、話をされて過ごされている。本棚を設置し、自由に見て頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込んでもらっている。家具の写真や作品を飾り、本人好みの居室作りが出来るよう支援している。安全面も考慮し、配置替えを本人と相談しながら行っている。	各部屋には洗面台、クローゼットが設置され、広く利用できる。入居前に利用していた枕や寝具、テレビ等を持ち込み、家族の写真、観葉植物、手作りの作品を飾り、本人が落ち着いて過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで廊下や浴室トイレには手すりが設置されており、安全に移動できる構造となっている。また、トイレ(男性・女性)・風呂場・居室を判りやすくするため、名札や絵等で表示している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡バラの家 (B棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	平成28年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(B棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や祭りへの参加、協力を行い地域の一人として交流を図っている。また、中高生の体験実習の受け入れや幼稚園への訪問、そして各種ボランティアの参加を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括ケアネットワーク推進委員会に定期的に参加して、在宅ケアや認知症ケア等医療、福祉が協同して実践出来るための意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また、地域包括ケアネットワーク推進委員会の委員として参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に出入りできるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したりミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度が必要なケースは過去に一例あったが現在は無い。過去に研修には参加しているが経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にも出来る限り運営推進委員会に参加して頂き全体的、個別的な話し合いを行っている。要望等は、カンファレンスで話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職が上がることで昇給に反映させている。また、資格手当により資格習得に向け、向上心を持って働ける環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が研修案内を閲覧して、希望があれば受講できるようにしている。また、必要な研修は業務として受け付けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。また、他施設の職員研修を受け入れネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接にて施設内の見学や本人と話をすることで、困っている事や不安や要望などに耳を傾けながら本人との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で家族にも施設内の見学してもらい、家族の現在困っていること・不安・施設への要望など聞きその希望に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接で本人や家族の希望・要望を聞き、ケアマネ・看護師・介護職員で話し合いをして、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする者として、利用者と一緒に作業したり、利用者の話に耳を傾け、互いに関わる時間を大切にし、安心して共に生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や様子を月一回のお便りで家族に報告。本人からの希望や状態変化時には電話連絡し対応している。家族の無理の無い程度で面会や外出をお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が面会に来所された時は、本人の居室でゆっくり話ができるように支援している。また、職員と一緒に周辺の散歩や見慣れた町並みへドライブに出かけたり、家族にお願いをして美容室や喫茶へ外出などされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や嗜好、特技、利用者同士の人間関係などの把握に努め、より良い関係を保ち、利用者同士が関わり合い支え合い楽しく生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は次のサービスへの情報提供(電話 連絡、サマリー)を行なっている。また契約終了後も依頼があれば相談や支援を行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いや意向の把握に努め、困難な人には、本人の思いを表情や動作から汲み取ったり、家族からも情報を得ながら本人の思いに添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人の今までの暮らしや楽しみなどを本人や家族から聞いて情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で一人ひとりの有する力を見極め、常に職員間で情報共有している。また、月1回のカンファレンスでさらに話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員をつけ、本人の希望や家族の要望を聞いてカンファレンスで話し合い、本人に合ったケアプランづくりに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・本人の言動・行動・ケア実践・結果・アドバイスなどを介護記録に記入することにより、職員間での情報共有やケアプランの見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人の希望にそえるよう、職員間で話し合い、ニーズに柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・各種ボランティア(遊び相手ボランティア等)等地域住民の方達の参加も頂き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の受診状況を把握、本人や家族の希望を確認し主治医を決定している。また、主治医による定期的な往診なども行い支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師職員を2ユニット3人配置して夜間帯、利用者急変時等には連絡し指示を受けたり、健康管理や状態変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の生活状況、及び状態を文章にして提供している。また、病院のケースワーカーと施設が情報交換し退院許可が出たらバラでの生活がスムーズに送れるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医に報告、相談し、本人や家族と話し合い方針を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備え24時間対応できるよう、医療連携体制を取っている。事故発生時にはヒヤリハット、事故報告内容を提出し対策を検討している。また、急変時のマニュアルを作成し初期対応、AED講習など定期的に受け対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、夜間火災や地震を想定した避難訓練を年2回施行している。訓練を通し利用者の現状態に応じた避難方法を確認している。災害時の備蓄として、3日分の食料を準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けをするよう努めている。また、利用者が安心して生活が送れるよう受容、傾聴に努め、その人らしい生活がおくれるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションを大切にし、どのようなことを希望されているかや、好きなことを聞き取れるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状態に合わせて、居室で休まれたり、居間で活動に参加されたりと、本人の希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。また、家族からの贈り物で、よく似合っているなどの声を掛けることを大切に、本人に喜んで頂けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、食器洗いを利用者の残存能力を活用しながら職員と一緒にしている。昼食には、職員も利用者のテーブルと一緒に座り楽しく会話しながら食事をしている。郷土料理など喜んで頂ける食事を取り入れるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考え管理栄養士や専門調理師が関わっている。また、病気により食事制限がある場合は、出来る範囲で個別に対応している。常に食事摂取量や水分摂取量を把握し、変化があった場合は主治医や管理栄養士に報告・連絡・相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態や残存能力を把握したうえで、個々に適した口腔ケアや清潔保持ができるよう支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、個々のできる力を見極め、声掛け・見守り・一部介助を行っている。また、個々の様子を観察することで、排泄パターンを把握し失敗の少ない支援に心掛けている。夜間、トイレまでの移動が困難な方は、PTイレを使用して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給で、利用者の状態に合わせてオリゴ糖を使用したり、体操や散歩などを随時行っている。また、希望される利用者にはヤクルトを飲んでもらったり、医師の指示により服薬コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴をローテーションで行っている。利用者の体調を考慮したり、順番のこだわりや拒否される利用者にはタイミングを図り柔軟に対応している。入浴中は職員との会話も楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じて休息したり、換気や室温に気を配り気持ちよく過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬のファイルを作成して、服薬している薬の目的や副作用など確認できるようにしている。内服時は名前と日時を確認し、一人ひとり手渡しをし再度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中から生活歴や経験を把握し、一人ひとりに合った役割や楽しみ・生きがい・気分転換が図れるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴、町内をドライブなどを行い楽しまれている。また、外出・行事・定期的な外出など家族の協力を得て行なっている。花見や花火大会等季節毎のイベントに参加し、気分転換も図っている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、今までの関係が切れないよう、新聞代やヤクルト代等の支払いは本人がされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話があり、本人が希望されればいつでも電話を掛けていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に製作した季節の作品を居間や居室廊下に飾っている。また、掲示板に行事の写真を貼り楽しんでもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に椅子を置き、仲の良い利用者同士話をしながら、日光浴や気分転換を図り利用者のくつろぎの場となっています。居間にもソファがあり、歌を唄ったり、話をされて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やご自身の作品を部屋に飾ったりして、部屋が明るくなるようにしている。また、家具を持ち込まれ、自宅に近い空間作りをされ過ごしている利用者もみえる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで廊下や浴室トイレには手すりが設置されており、安全に移動できる構造となっている。また、トイレ・風呂場・居室を判りやすくするため、名札や絵等で表示している。		